



優秀賞
パイオニア株式会社

世界初、AI搭載通信型 オールインワン車載器「NP1」

アップデートやクラウド連携で進化し続ける車載器

DATA

活用領域・解決する課題	自動車の快適性・利便性向上
テクノロジー・デバイスキーワード	通信型車載器、自動車Wi-Fi、パーソナライズAI、音声合成技術サービス



パイオニア
経営戦略本部
CMO
井上慎也氏

その時、その人が望む自動車内のコンテンツやサービスを提供し、快適な運転体験を——パイオニアの「NP1」はモバイル通信とAIを搭載した「進化するオールインワン車載器」である。

新車購入時のナビゲーションやドライブレコーダーなどは、内容が古くなったり自分に合わず使わなくなるケースも多々ある。また、求める機能や情報もビジネスなのか家族旅行なのか、移動目的によって変わる。

「NP1」は、ハードウェアを買い替えずとも、ソフトウェアのバージョンアップやサービスの追加により、多彩な機能を提供する。利用者は好きなものを選んで活用できる。

開発コンセプトについて、パイオニア経営戦略本部・CMOの井上慎也氏は、次のように説明する。

「将来の自動運転も視野に入れ

ば、車内は“第二のリビング”になるでしょう。新しい移動体験を創造する観点で、これまでのモノづくりの常識にとらわれず、“車の中のスマホ”のような新しいカテゴリーを目指しています」

同社は、音声インターフェース、サービス、コアエンジン、データの4つのレイアからなるモビリティAIプラットフォームを「Piomatix」と称している。

好みの音声を選択し 助手席にいるようなナビ

代表的な機能の一つに、次世代通信型ドライブレコーダーがある。通常はSDカードにデータを保存し、衝撃を検知したり、声や手で操作した場合は、クラウドにも自動保存される。映像はすぐに自身のスマホで確認できるので緊急時にも心強い。

カーナビゲーションは、「スマート音

声ナビ」に対応。助手席で道案内してくれるように、運転者の視野を意識して案内する。地図と見比べる手間がなく、慣れないドライバーでも運転しやすい。さらに、音声合成技術「コエステーション」との連携により、自分が好きな声を選ぶことも可能にした。

音声案内では近隣の飲食店や観光名所などの情報も提供可能だ。ただ、運転負荷がかかっている場合はAIの判断で案内を控えるなど、人に寄り添うサービスとなっている。

発売後も「Amazon Alexa」の対応や、セキュリティ機能の強化が行われた。今後もサービスは適宜追加されていくとのこと。「お客様と一緒に、新しいサービスや機能を生み出していきたい」と井上氏は力を込めた。

図1 AI搭載通信型オールインワン車載器「NP1」



図2 「NP1」の土台となるAIプラットフォーム「Piomatix」のイメージ

